

中国地方発展ビジョン（三海二山交流圏構想） 実現への歩み

Step to realizing ‘The Chugoku Region Development Vision’ (‘Exchange
Concept of the Three sea and Two mountains area’)

中国経済連合会
企画部長 小早川 隆

はじめに

中国地方は、「第四次全国総合開発計画」（四全総、昭和62年6月）において、明確な圏域整備の方向が示されなかった。このため、中国経済連合会では平成3年以降、ポスト四全総に向けて、行政機関、関係経済団体、研究者等と連携を取りつつ、中国地方の統一的なビジョンの構築を行ってきた。その成果が「中国地方発展ビジョン～三海二山交流圏構想」（平成8年2月）である。

平成10年3月に、国土づくりの長期的な方向性が示す「21世紀の国土のグランドデザイン（全総）」が閣議決定された。中国地方は「多様な主体の参加と連携の下でグローバルな交流を進める多軸・分散型発展の先導的地域」と位置づけられ、東西2本の国土軸の形成と、南北に結ぶ複数の地域連携軸の形成など、「中国地方発展ビジョン」などでの当会の主張がほぼ盛り込まれた。また、平成11年3月に閣議決定された「中国地方開発促進計画」においては、当地域の発展に向けた施策の展開方向がより具体的に示された。

* 「三海二山」とは、中四国がそれぞれの地域資源を活かしながら、東西南北方向に多様で活発な交流・連携を展開することによって、広域的な経済文化交流圏が中国山地と四国山地という二つの山を越えて、日本海、瀬戸内海、太平洋という三つの海に広がり、さらに海外へと連なっていく様子を表している。

1. 「中国地方発展ビジョン～三海二山交流圏構想」

中国地方は、日本海沿岸、瀬戸内海沿岸、中山間地など多様な立地条件のもとで、大小さまざまな都市が適度に分布する分散型地域構造が特徴である。これらの都市が相互に連携・補完することで、より多様で選択性のある生活、産業、文化、国際交流などの

展開が可能となり地域全体のポテンシャルが増大する。この連携・交流を支える基盤として、日本海国土軸や中四国循環型地域連携軸などの整備の必要性を取りまとめたものが、「中国地方発展ビジョン」である。

策定にあたっては、平成4年度の中国地方知事会において、産学官による「中国地方発展推進協議会」の設立を合意し、その後、広島市の合意も得て、鳥取、島根、岡山、広島、山口の各県知事と広島市長ならびに当会会長を構成員とする本協議会を組織し、各構成員の意見の集約・調整を行ってきた。更に、策定後は、関係省庁等への提言活動やシンポジウムなどを実施した。これら活動を通じて、「三海二山交流圏構想」は、中国地方の発展の方向性を示す合言葉として、経済界のみならず関係自治体等においても広く使用されることとなり、その後の各種提言の基本理念となっている。

2. 「中国地方発展ビジョン」の展開のための構想

(1) 「瀬戸内海グランドデザイン」および「瀬戸内海歴史文化回廊」

世界有数の多島美を誇る瀬戸内海は、豊かな自然、歴史・文化等の地域資源、軽工業から重化学工業までの多様な産業などが集積している。この地域に生活・産業・交流の場として調和のとれた交流圏を形成することが、中四国地方の一体的発展に不可欠である。このため、当会が事務局となり、瀬戸内海沿岸6県（岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛の各県）と四国経済連合会で構成する「瀬戸内海交流研究会」を設立し、「ネットワーク型世界都市圏の形成」と「海と島を活かしたインランドシー・パティオの創造」を内容とする「瀬戸内海グランドデザイン」（平成8年11月）を策定した。

また、本デザインの具体化に向けて、多方面にわたる有識者で構成する「歴史文化回廊研究会」を設置し、歴史・文化資源をストーリー性のある統一テーマ（瀬戸内水軍、祭りと芸能、文学美術など）のもとでネットワーク化した「瀬戸内海歴史文化回廊」（平成9年10月）を策定した。

(2) 「山陰・日本海国土軸グランドデザイン」および「山陰・日本海歴史文化回廊」

山陰・日本海沿岸地域は、日本の原風景とも言える美しい自然や、かつて日本の表舞台として栄えた古代史跡など豊富な地域資源を有している。環日本海交流への注目が高まる中、当地域がさまざまなネットワークを通じて一体的に結びつくことで、21世紀の日本の発展を支える重要な国土軸となる可能性が高い。このため、当会では、当地域の産学官から構成された「日本海グランドデザイン研究会」を設立し、「山陰エコ・バレー都市構想」、「山陰ネットワーク回廊構想」などを内容とする「山陰・日本海国土軸グランドデザイン」（平成10年3月）を策定した。

また、これらの具体的展開として、産学官で構成する「山陰・日本海歴史文化回廊調査委員会」を設置し、広域観光も視野に入れ、テーマ別（神話、維新、文学、伝統工芸な

ど)に分類・ルート化した「山陰・日本海歴史文化回廊」(平成11年3月)を策定した。

(3) 広域都市圏の形成に向けて

当会では、グランドデザイン(全総)を地域自らの選択と責任で具体化していくことが大きな課題と認識し、2つの国土軸の結節点である「山口県西部地域の振興構想」(平成11年3月)や、中枢拠点都市と位置付けられた「備讃瀬戸広域都市圏(岡山・倉敷・高松都市圏)の形成に向けて」(平成11年3年)の策定を行った。

(4) 都市圏グランドデザインの検討

当会では、平成12年度事業として、少子高齢化・過疎化が進行し成長の極となる地域が限定されつつある中国地方において、広域的な視点から成長の極となる都市圏のグランドデザイン(発展戦略、整備方向、周辺地域への波及効果等)の検討を行うこととしている。

3. おわりに

今後とも、当会では、国と地方との役割分担の明確化や地方への権限・財源の移行などにも留意しつつ、関係諸機関と連携を取りながら、「中国地方発展ビジョン」や「中国地方開発促進計画」の具体化に向けた諸活動を展開していきたい。

表 中国経済連合会が策定した各種地域ビジョンと国土計画

地域ビジョン	中国地方発展ビジョン(平成8年2月策定)	瀬戸内海グランドデザイン(平成8年11月策定)
構成員	中国地方発展推進協議会(平成4年8月設立) 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県の各県知事、広島市長、中国経済連合会会長 (事務局：中国経済連合会)	瀬戸内海交流研究会(平成7年3月設立) 岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、四国経済連合会、中国経済連合会(事務局)
目的(趣旨)	中国地方が21世紀の成熟社会にふさわしい真のゆとりと豊かさが実現できる地域をめざし、四国地方とともに自立的な「中四国経済文化交流圏」のもとで、近畿、九州との交流・連携を促進し、日本海沿岸諸国、黄海沿岸地域、アジア・太平洋地域などとの活発な交流・連携を展開することによって、西日本全体の活性化と一体感のある国土の形成、そして世界の協調・発展に資することを目的とする。	世界に誇る瀬戸内海の自然環境の保全と創造を図り、生活・交流空間としてのハイアアメニティ化を進めるとともに、人・もの・情報がグローバルに集まるオープンな社会経済環境を備えた世界都市圏(海と島のパティオ(中庭)をもつ「瀬戸内海コズミックポリリス」)の形成を図る。
主な内容	4つの構想と主要プロジェクト 1. 豊饒の地構想：日本海総合活用、瀬戸内海創生、中山間地域新生 等 2. 知の創造構想：新たな産業中枢拠点の形成、学術・研究開発ネットワーク形成、新産業振興 等 3. 交流舞台構想：世界都市の整備、国際交流・国際貢献推進 等 4. 発展基盤構想：日本海国土軸(山陰自動車道、関門海峡道路等)の形成、地域連携軸の形成(中四国循環型地域連携軸基盤整備、西瀬戸国際交流圏形成等)、多心連携型中核・中核都市圏等整備、国際空港・国際港湾整備、高度情報通信ネットワーク整備 等	2つの戦略と展開方策 1. ネットワーク型世界都市圏の形成 ・新産業の創造支援ネットワークづくり ・国際ゲートウェイ機能の形成 ・瀬戸内海情報ハイウェイの形成 など 2. 海と島を活かした「インランドシー・パティオ」の創造 ・自然環境の保全・回復・創造 ・ハイアアメニティ空間の創造 ・ネオリゾート空間の創造 ー瀬戸内海歴史文化回廊の整備ほか
地域ビジョン	備讃瀬戸広域都市圏の形成～岡山・倉敷・高松都市圏を中心として(平成11年3月策定)	
構成員	岡山県商工会議所、香川県商工会議所、岡山経済同友会、四国経済連合会、中国経済連合会	
目的	全総の「岡山・高松中枢拠点都市」具体化、地域連携軸東ルートの中核となる広域都市圏の形成	
主な内容	・生活・文化面の交流拡大(情報共有の推進、文化・スポーツ交流強化) ・特色ある街作りの推進 ・広域観光ルートの形成 ・産業・技術面の交流拡大 ・交通基盤の整備(通行しやすい瀬戸大橋の料金設定)	
国の計画	新・全国総合開発計画 21世紀の国土のグランドデザイン(平成10年3月31日閣議決定)	
主な内容	「多様な主体の参加と連携の下でグローバルな交流を進める多軸・分散型発展の先導的地域」 ・日本海国土軸、西日本国土軸の形成 ・日本海・瀬戸内海・太平洋に至る東西の地域連携軸、日本海沿岸の地域連携軸、瀬戸内海地域の交流圏 等 ・高規格幹線道路・地域高規格道路の整備推進、情報通信基盤整備、関門海峡道路構想、広島・松山の交通体系検討 等 ・アジア太平洋地域等へのゲートウェイ機能強化として、広島空港、広島港、境港等の整備とアセスのための交通基盤整備 等 ・多自然居住地域の創造に向けた、地域の歴史、文学、芸術等をつなぐ文化回廊構想 等	

山陰・日本海国土軸がランドデザイン(平成10年3月策定)	その他関連のビジョン・構想、提言等
<p>日本海がランドデザイン研究会(平成9年8月設立) 鳥取県、島根県、山口県の各県・商工会議所連合会、 学識経験者、シタック、中国経済連合会(事務局)ほか</p> <p>「中国地方発展ビジョン」の基本的な考え方を踏まえ、その実現に向けた取り組みの一環として、21世紀における山陰地域の可能性と発展の方向性を展望することによって、日本の発展を支える日本海国土軸の形成、中四国地方の一体的発展、環日本海交流の活発化、そして世界の協調・発展に資する。 (目標)環日本海交流の発展を担う21世紀の「まほろば」(古事記、日本書紀で国のすばらしさ、美しさを表現する言葉)</p>	<p>○瀬戸内海歴史文化回廊(平成9年10月策定) 【構成】瀬戸内海歴史文化回廊研究会 【内容】瀬戸内海の豊富な歴史・文化資源をストーリー性のある統一テーマのもとでネットワーク化</p> <p>○山陰・日本海歴史文化回廊(平成11年3月策定) 【構成】山陰・日本海歴史文化回廊調査委員会 【内容】山陰地域の古代から現代までの豊富な歴史文化をテーマ別に分類し、8つの道(古代出雲・銅・鉄・銀・海、城・武将、維新、古社寺、文学、伝統工芸・食文化)として設定</p>
<p>5つの構想と主要プロジェクト</p> <p>1. <u>山陰エコ・ハブ都市構想</u>：自然環境保全、快適生活空間の創出、6次産業振興、新産業創出、都市基盤整備 等</p> <p>2. <u>山陰ネットワーク回廊構想</u>：中核都市圏形成、歴史・文化回廊形成、サテライト機能強化 等</p> <p>3. <u>多極・多軸・循環型ネットワーク構想</u>：三海二山連携強化、循環型交通網の整備、高度情報ネットワークの構築 等</p> <p>4. <u>環日本海グローバルネットワーク構想</u>：北東アジアへのゲートウェイとしての交流推進および人材育成、国際交流基盤整備 等</p> <p>5. <u>山陰中央都市圏構想</u>：交流中核機能の集積、境港FAZ機能強化、米子・出雲ワイルドポート、8の字交通ネットワーク整備 等</p>	<p>○都市圏がランドデザイン(平成12年度) 【構成】都市圏がランドデザイン研究会 【内容】1. 中国地方の都市圏の現状と課題の把握 2. 類型別(中核、中核拠点、中核、地方中心)および主要な個別都市圏の整備方向 など</p> <p>○中国地方の交通基盤の一体的整備(毎年7月策定) 【構成】中国経済連合会交通問題委員会 【内容】高規格幹線道路、地域高規格道路、空港、港湾等の建設・整備促進に向けた支援、要望の継続的実施(毎年、国に対する要望活動等を実施)</p> <p>上記は、いずれも中国経済連合会が事務局</p>
<p>山口県西部地域振興(MOKA: Management of Kanmon Area) 構想(平成11年3月策定)</p>	
<p>山口県西部地域の経済団体・企業および(社)九州・山口経済連合会、中国経済連合会で構成する委員会・ワーキンググループ</p>	
<p>下関・北九州の高度都市機能と長門・豊浦の自然・歴史文化機能を連携させた関門多自然中核拠点都市圏の形成</p>	
<p>・国際交流都市構想 ・環境先端都市構想 ・関門市民情報一元化構想 ・カレッジネットワーク構想 ・文学・芸術の駅構想 ・食べもの都市構想 ・朝市大循環構想 など11の振興プロジェクト</p>	
<p>中国地方第四次開発促進計画(平成11年3月30日閣議決定)</p>	
<p>「多軸・分散型発展を先導する中国」 [目標年次：がランドデザインと同じく、概ね平成22～27年(2020～2015年)]</p> <p>・発展拠点づくり：広島と岡山・倉敷の中核拠点都市圏としての高次都市機能集積、松江・米子・出雲都市圏の形成 等</p> <p>・都市圏連携：広島・松山、岡山・高松、下関・北九州 等</p> <p>・地域連携軸：日本海・瀬戸内海・太平洋に至る東西の地域連携軸、日本海沿岸地域連携軸、瀬戸内海地域の交流圏 等</p> <p>・交通・情報通信基盤：高規格幹線道路・地域高規格道路等の整備推進、関門海峡道路構想、広島・松山の交通体系検討 等</p> <p>・海外とのゲートウェイ機能の強化：国際交流拠点となる空港、港湾にアクセスする軌道系を含めた交通基盤の整備 等</p>	